

いのちめぐるまちニュースレター

～森里海ひとをつなぐ～ | 第1号

会員募集中

いのちめぐるまち推進協議会（事務局：一般社団法人サスティナビリティセンター）は、南三陸の事業者や住民が、森里海の地域資源の価値を高めながら持続可能な方法で活用して行く方法を一緒に考え、協働を生み出す場です。

町の将来像である「森里海ひとのちめぐるまち 南三陸」の実現に向け、大学の研究者との対話や事業者同士の情報交換の機会としてもご活用頂けます。

南三陸町が循環型で災害にも強い持続可能な社会モデルとなり、住民が誇りをもって暮らせるまちづくりを目指す活動に、是非ご参加下さい。

（※いのちめぐるまち推進協議会の会員とは、一般社団法人サスティナビリティセンターの定款に定める正会員・一般会員・賛助会員のことを指します。）

－お詫び－

以前の申込書では、協議会会員がサスティナビリティセンターの会員であるとの明確な説明が抜けておりました。この点で意にそぐわないなどのことがありましたら、退会・会費返金手続をとらせて頂きますので、事務局まで遠慮無くお知らせ下さい。説明不足で大変申し訳ありませんでした。



第1回いのちめぐるまち推進協議会開催

2018年10月1日(月)、南三陸ポータルセンターにて記念すべき第1回のいのちめぐるまち推進協議会が開催されました。初回はどなたでもご参加頂ける形式にしたこともあってか、町外からの参加者も含め総勢46名にご参加頂きました。最年少はなんと0歳！幅広い年齢／属性の参加者により、充実した情報交換・議論の場となりました。概要をご紹介します。

「いのちめぐるまち」への経緯

南三陸町がその将来像として、なにゆえ「森里海ひとのちめぐるまち」を掲げるに至ったのか、この協議会がどんなきさつで生まれたのか、をあらためて参加者の皆さん





祝！ラムサール条約湿地登録（志津川湾）

2018年10月、志津川湾のラムサール条約湿地への登録が正式に認められました。先導的役割を果たしたネイチャーセンター準備室や南三陸ネイチャーセンター友の会の活動に敬意を表します。

まずは志津川湾の有する生物多様性とそれを支える環境の豊かさが世界に認められたということを、素直に喜びたいと思います。そして、この湾のどこが誇れる部分なのか、それを将来にわたって維持していくためには何が必要なのか？を住んでいる人みんなが語れるようになるよう、分かりやすい教材をつくっていければと思います。

また、最も重要なのは、ワイルドユースの考え方からして、湾の環境を守りながら活用する取り組みを広めていくことだと思います。例えば、観光業に当てはめた場合何ができるか、というように、それぞれの立場で活用法を考えていくと、自分事となり、ラムサールの理念も浸透しやすくなりますよね。手始めに12月4日(火)に、町の観光事業の一環で、滞在型観光の講座のなかでワークショップをさせて頂くことになりました。他にも「こんな機会で話をして欲しい」などのご要望がありましたら、事務局までご一報頂ければ幸いです。みんなで活用法を考えましょう！

と共有しました。また目指すべき将来の姿について、一緒に考えていくことを確認しました。

ASC認証取得のカキ養殖が生んだ効果

戸倉のカキ養殖が日本初のASC養殖場認証を取得して3年。その間に漁場や地域に起こった変化がようやく見えてきました。JFみやぎ志津川支所長の阿部富士夫さんのデータをもとに環境省戦略研究の成果も交え、環境・経済・社会の視点から、戸倉地区で起こった変化を検証し、ご紹介しました。

ごく簡単に説明すると、1年物主体の養殖に切り替えたことで海への汚濁負荷が減り、カキの成長が良くなり、市場の評価も上がりました。また、カキむきにかかる時間短縮などで労働生産性が上がり、津波や台風の被害にあっても1年分の損害に押さえられるので、災害に対するレジリエンス（復元性）も増した、というもの。何よりも地域に若い漁業者が増えている事実は見逃せません。

この取り組みは間違いなく世界に誇れるものです。いのちめぐる好事例として、今後も折に触れ発信していきたいと思います。



地域のエネルギーを考える

東日本大震災では、地域を支えるエネルギーインフラが、いかに脆弱かを身をもって体験しました。震災復興が進むなか、地域のエネルギー事情は震災前とさほど変わってな

上半期活動報告

本年4月に設立した一般社団法人サスティナビリティセンターの活動のご報告です。

◇早稲田初等部親子研修



有名私立大学の初等部理科教諭とともに企画した、いのちめぐるまちづくりを学ぶ3泊4日のフィールドワークです。今年で3年目を迎え、親子が同じ目線でともに学んでいくという意欲的な内容は、今後の新しい教育旅行モデルとなる可能性があります。

◇復興・創生インターン受け入れ

大学生が企業の経営課題にホンキで挑む1ヶ月を、南三陸ブロックで(株)ESCCAと合同で企画・運営しています。この夏は5社のプロジェクトで全国から応募のあった8名の学生を受け入れました。被災3県の企業の採用力や受入力の向上を狙って企画されたのですが、南三陸ブロックは飛び抜けて優秀な学生さんが成果を出しているという定評を頂いています。

◇地域エネルギー調査事業

地域エネルギー協議会の委託を受け、町内のエネルギー利用の実情を明らかにするための調査を行っています。地域の皆様のご協力を何卒よろしくお願ひいたします。

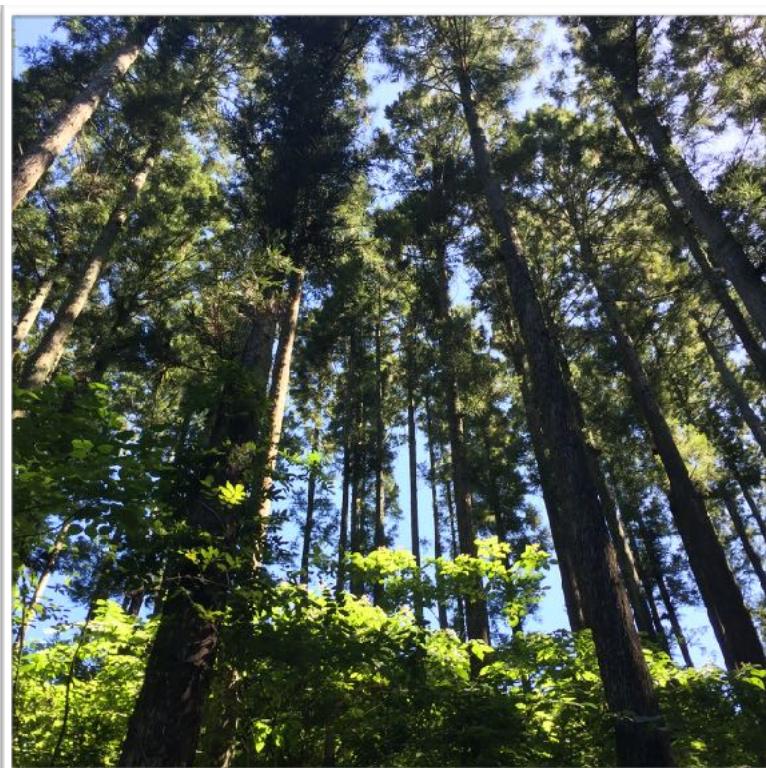
い現状を開拓しようと、合同会社MMRが旗振り役となり南三陸町地域エネルギー協議会（以下、「地域エネ協」）が立ち上りました。当センターも事務局業務を担っています。地域エネ協の目指す役割について、合同会社MMR代表社員の佐藤太一さんより報告がありました。

今年度は宮城県の補助事業を活用して、町内のエネルギー事情の把握を行うとともに、将来の姿を描いていくという計画となっています。町内のエネルギーをどのように考えて行けば良いのか？ 地域エネ協の計画をもとに、いのちめぐるまち推進協議会でも引き続き議論していきます。

ゴミの100%資源化を目指して

南三陸BIOを運営するアミタ株式会社からは、櫛田豊久さんからMEGURUステーション実証事業のご紹介がありました。これは10月2日より結の里駐車場にて2ヶ月間実施するゴミの持ち込み分別実験により、焼却にまわるゴミを限りなくゼロにし、資源として循環させるための課題を明らかにしていくというものです。

毎日必ず出るゴミの話題ということで、参加者も高い関心を寄せている様子がうかがえました。ゴミの処理は行政課題でもあり、また、町内エネルギーや物質循環とも密接に関わっています。ゴミの100%資源化を達成するためには





◇ASCカキブランド化（町補助）

企業版ふるさと納税を原資とした町の補助事業の採択を受け、日本初のASC認証を取得した戸倉カキのブランド化を若手漁業者とともに実施しています。漁場改革により、1年でカキを収穫できるようになった戸倉地区のカキは、2年物と比べて渋みが少なく、より甘みを感じられる特徴があります。環境に負荷をかけない養殖法も含め、この価値を伝えるブランディングを進めています。

今年度はこの他にも、いのちめぐるまち推進協議会運営を含むセンターの事業運営の一部に町からの補助金をあてています。これは町が議論してきた地域資源プラットフォームとしての役割に対する期待のあらわれといえます。

いのちめぐるまちニュースレター

～不定期発行～

編集・発行

一般社団法人サステイナビリティセンター

〒986-0775

宮城県本吉郡南三陸町志津川廻館

69-15

tel : 050-5236-2263

e-mail : info@m-sustainable.org

HP : <https://m-sustainable.org/>

（文責：太齋彰浩）

どうしたらよいか、本協議会の場も活用して議論を継続することになりました。実証試験は11月末まで実施されますので、そこで出てきた課題をまた共有する機会を提供していきます。

ディスカッション・いのちめぐるまち

最後にサステイナビリティセンターの今年度の活動について報告し、果たすべき役割についてご意見を頂きました。

各セッションをとおして頂いたご意見も含め、主なものを記します。

- ・ASCの効果の可視化などは大変重要な役割。
- ・町内は公的な資金で、町外は受益者負担による教育を担っていくのが良いのでは？
- ・農に対する認証も検討進めるべき。生活排水の問題も重要。
- ・エネルギーの話は山の資源のみが対象なのか？BDFもいれてはどうか。ゴミの活用の可能性もある。
- ・ゴミゼロ事業は人口減少が前提のなかで、予算的に成り立つか？
- ・ゴミゼロ実証事業の改善の議論はどこでするのか？
→この協議会も活用していく。

ご参加頂いた皆様の熱量も高く、あつという間に予定の時間がきてしましました。こうした町の動きを俯瞰して共有する機会を協議会の全体会として提供していくとともに、個別のテーマについても、深い議論ができる場づくりを進めたいと思います。あらためてご参加頂いた皆様に厚く御礼申し上げます。

次の全体会は年度末に開催予定です。

